

2. 研究運営体制・組織

当研究所は、近畿大学の附置研究所です。本部の近畿大学リエゾンセンターとの連携を通じて、近畿大学全体の研究資産を提供できます。

現在、当研究所は、工学部の教員 26 名で構成されており、加えて事務職員 3 名が業務に当たっています。また、研究所事業を運営するため、社会連携センターと 4 つの研究センターを設置しています。

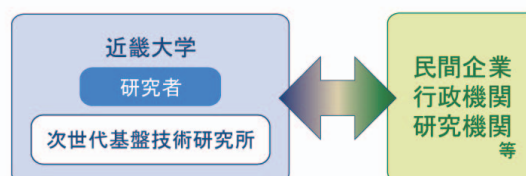


3. 研究センターの紹介

3.1. 社会連携センター（産学官連携の窓口）

2008 年 4 月に社会連携センターを設置しています。ここでは、産学官連携のワンストップ窓口として共同研究や技術相談の受付を行うとともに、工学部の研究機能の強化支援などを行っています。また、2009 年度には、地元金融機関との包括連携協定を締結し、学部生を対象にキャリア教育としての寄附講座を実施しています。地域密着型の様々な出会いと連携により、技術課題の解決等に貢献するとともに、今まで気づかなかった独自性・新規性のある研究につながっていくなど、重層的な関係構築を目指しています。

- 研究費の受け入れ
- 技術相談
- 工学部研究公開フォーラム
- 研究室訪問
- 工学部産学官連携推進協力会



産学官連携推進協力会は 2002 年 10 月に設立以来、行政機関等のご支援のもと、地域産業界との連携強化を目的として、共同研究や受託研究のほか、リエゾン活動として、毎年、研究公開フォーラムへの出展・技術発表会・特別講演・産学官交流会・リカレント講座の開催、ニュースレターの発行などの活動を行っています。（2010 年 4 月現在 会員数 124）

3.2. 建築環境研究センター（環境に配慮した持続可能な住宅を研究）

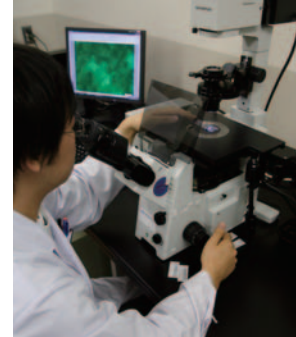
大地に根を張り、自然と共生しながら築かれてきた建築物。しかし最近ではその建築こそが自然を破壊し、地球温暖化に大きな影響を及ぼしていると言われてしています。建築環境研究センターでは、廃棄物削減・資源の再利用化を前提に省エネ・快適性・耐震・安全性、改修・耐久性をテーマにして、「持続可能な住宅」について総合的に研究しています。具体的には経済持続可能性、環境持続可能性、そして社会持続可能性を考えなが



ら、「雨水による自然冷暖房システムの提案」などの研究に取り組んでいます。

3.3. バイオ工学研究センター（食品や医療などに役立つ成分、物質を研究）

バイオ工学研究センターでは、さまざまな成分や物質を研究し、医療や食品に役立てるための研究を行っています。研究内容は、新たな機能性タンパク質の開発につながる高圧環境下における深海微生物由来タンパク質の解析、ガンの診断や治療につながるガン細胞中のタンパク質の変動の解析、細胞接着能力をもつ高分子生体材料を用いた遺伝子、タンパク質の網羅的解析システムの構築による新たな細胞機能分析システムの開発です。そのほか、培養細胞を用いて、酒の含有成分、ペプチド、ビタミン、漢方成分などの生理活性を測定し、医薬品、保健機能食品への開発につながる研究に取り組んでいます。



3.4. サービス工学研究センター（サービス産業の生産性向上を科学的に分析）

サービス産業では、業務の多くを経験と勘に頼っていますが、科学的・工学的手法を用いた業務効率の向上、付加価値の向上、新規ビジネスの創出などに向けた動きが起きています。

$$\text{サービス産業の生産性} = \frac{\text{サービス提供価値の向上}}{\text{サービス提供方法の効率化}}$$



サービス工学研究センターでは、実際のサービス現場を実証フィールドとして、現場でのデータ取り等の観測、分析、設計、現場への適用を行い、科学的・工学的手法を用いたサービス産業の生産性向上につながる研究に取り組んでいます。

3.5. 自動車技術研究センター（カーエレクトロニクス技術で安全・環境・利便性を追求）

広島県は、大手自動車メーカーを中心に、多くの部品メーカーが裾野産業となっている自動車産業の盛んな地域です。近年の自動車は環境・安全・利便性のニーズが高まり、先進のエレクトロニクス技術やロボット技術だけでなく、人間工学など幅広い分野の技術が求められています。自動車技術研究センターでは、こうした先端技術の基盤研究だけでなく、地域の企業等と連携した技術開発や人材育成にも取り組み、地域の活性化に貢献することを目指しています。

